

27 JULY 2000



第11号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒162-8785 新宿区北山伏町1-5

牛込郵便局留

編集：JAAGA 事務局

印刷：(財)防衛弘済会

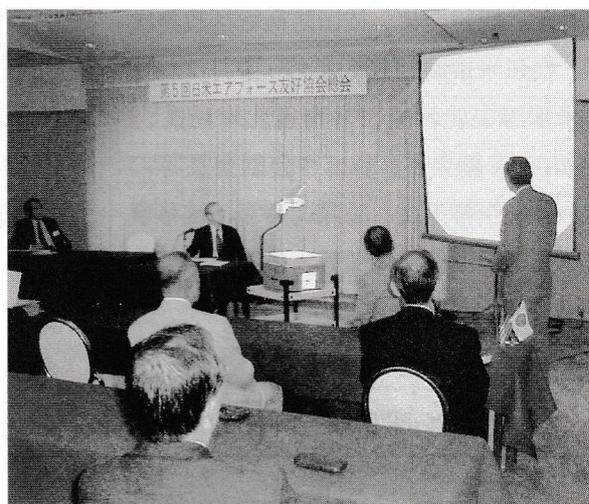
第5回 総会・懇親会開催

三沢と沖縄にJAAGA支部を結成

特別記念講演は「WILD WEASELS」

5月19日、グランドヒル市ヶ谷において、日米エアフォース友好協会の第5回総会、及び記念講演会を実施すると共に懇親会を実施した。

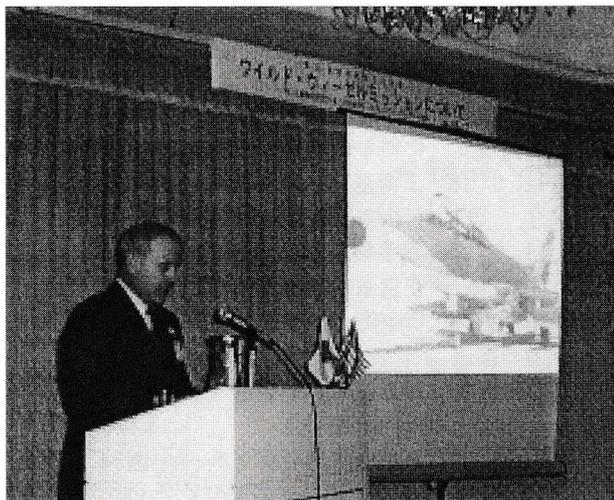
総会は、出席者40名委任状提出者138名により成立した。冒頭、故青田中央会員のご冥福を祈って黙とうを捧げた後、石塚会長が「5年目は一つの節目の年であり、4年間の成果を生かして益々の会の発展に努めたいと思う。会員皆様の御叱声並びにご協力をよろしく願います。」と挨拶を述べ、引き続いて会長自らが議長を務め第1号から第6号までの議案の説明並びに審議に入った。各議案の細部は別掲のとおりであり、夫々担当の常務理事が説明を行い、引き続いて審議が行われた。その結果第1号から6号までの議案は、いずれも提案どおり承認され、総会は滞りなく終了した。尚、第2号議案の中の今年度事業として提案された、三沢支部並びに沖縄支部の設立が承認されたことに伴い、両地区周辺



General Meeting

に所在する会員をもって新たに支部が結成されることとなった。

引き続いて会場を移して、在日米空軍第35戦闘航空団司令兼三沢基地司令、ウッド准将を講師に迎えて記念講演会が催された。ウッド准将は6月末に国防省に転勤が予定されている極めてご多忙の中、三沢基地から駆けつけ、第35戦闘航空団の主任務である、「ワイルドウィーグル・ミッションについて」と題して講演をされた。講演は、湾岸戦争において49回の戦闘出撃経験を持たれる等、コマンドパイロット（高級操縦士）としての豊富な知識経験をもとに、米空軍がベトナム戦争を通じて築き上げてきたワイルドウィーグルの発展経緯、戦法と訓練、最近の実戦での成果と教訓、今後の趨勢等について極めて示唆に富んだ教訓的な話しをされた。聴衆は約160名であったが、そのうち総隊司令部並びに幹



B. Gen. Wood

部学校等から約70名の現役空自幹部の参加があり、約50分の講話の後、同じく約50分の質疑応答の時間が設けられ、活発な質疑応答が行われた。講話終了後、会長より転勤前のご多忙にも拘わらず「教訓に富んだ、中味の濃い講話を頂き、感謝申し上げます。帰国後は、議会との連絡調整という今よりリスキーな勤務につかれる訳ですが、今後益々のご発展を祈ります。」と謝辞を述べた後、感謝の意を表わして記念品として九谷焼の壺を贈呈された。

次いで、再び会場を移して懇親会が行われた。懇親会は、依田防衛総括政務次官、在日米軍司令官ヘスター中将ほか、在日米軍等主要幹部、外務省北米局長、JANAF 副会長、つばさ会副会長等のほか、航空幕僚長、総隊司令官、統幕事務局長等現役主要幹部等、多数の来賓の

参加を得て開始され、途中から瓦防衛庁長官も駆けつけられて大いに盛り上がり、和やかな雰囲気の中話しが弾み、随所に歓談の輪が出来たが、盛会のうちにお開きとなった。

以上をもって、JAAGAの第5回総会関連行事は全て終了した。



Reception

第1号議案

平成11年度事業報告書

第1. 事業実績の概要及び会勢の現状

- (1) 平成11年度事業は、協会発足後3年間の実績を踏まえ、ほぼ計画通り実施できた。
- (2) 平成12年3月末現在の会員数は、個人会員270名(賛助会員8名を含む。)、法人会員40法人であり、昨年度(個人会員256名、法人会員36法人)より14名、4法人増加した。

第2. 友好親善事業の実施状況

- (1) 日米共同訓練における参加日米隊員の激励等
 - 11.6.11 グアムにおける共同訓練参加空自部隊に激励金を交付
- (2) 米空軍隊員の激励・慰問
該当実施事項なし。
- (3) 日米共同の行事等に対する協力
 - 11.7.20 嘉手納における日米親善ゴルフ大会に対する支援を実施
- (4) 空自及び米軍基地等の研修
 - 11.5.24 横田基地の研修(平成10年度事業として実施)
 - 12.3.13~14 嘉手納基地、那覇基地及び横田基地の研修
- (5) 日米要人等の講演
 - 11.6.24 講師: 第5空軍航空情報隊長ピーティ

大佐、演題:「中東における航空監視活動の実態」

- 12.1.12 講師: 在日米軍司令官ヘスター中将、演題:「コソヴォの教訓」
- (6) SPORTEX
 - 11.9.23 多摩ヒルズ
- (7) 在空自米空軍幹部等支援
 - 11.11.19 NCO Exchange Program に支援金を交付
 - 12.3.1 岐阜及び熊谷基地所在米空軍幹部に物品支援
- (8) 日米隊員の表彰等
 - 11.9.18 横田基地、米空軍ヨーク大尉以下3名に対し優秀隊員表彰
 - 11.9.18 三沢基地、米空軍コンネル曹長及び空自山本空曹長に対し優秀隊員表彰
 - 11.9.25 嘉手納基地、米空軍ハリス上等兵及び空自糸井空士長に対し優秀隊員表彰
- (9) 指揮官交代行事等への参加及び来日した米空軍関係者の接遇
 - 11.4.30 第5空軍副司令官(ステイーブンソン大佐)送別会
 - 11.8.13 在日米軍司令官(ホール中将)送別会
 - 11.9.3 在日米軍司令官(ヘスター中将)交代

- 式(横田基地)参加
12. 1. 5 横田基地司令(ヴォルチェフ大佐)送別会(横田基地)参加
12. 1. 11 横田基地司令(ザムゾウ大佐)交代式(横田基地)参加
- (10) 日米安保等に関する広報活動
11. 9. 28 米子市「白鳥会」等防衛協力団体に対し防衛講話
- (11) 在日米空軍各基地との連携との強化
主として渉外担当常務理事を通じ実施
- (12) その他
11. 11. 16 日米ネービー友好協会懇親会に参加
12. 2. 25 アニュアル・ジョイントサービス・レセプションに参加
12. 3. 14 福生・横田交流クラブ スプリングパーティに参加
12. 3. 17 米海軍第7潜水艦群研修に参加

第3. 一般運営事業の実施状況

- (1) 会勢の維持・拡大(11年度末現在、()内は10年度末)
- | | | |
|--------|---------|-----------|
| 正会員 | 262名 | (249名) |
| 個人賛助会員 | 8名 | (7名) |
| 法人賛助会員 | 40法人 | (36法人) |
| 計 | 310名・法人 | (292名・法人) |
- (2) 会員名簿の作成・配布
11. 7. 31 本冊発行、全会員に送付

11. 12. 2 会員名簿修正表発行、全会員に送付
- (3) 会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行・配布
- 8号(11. 7. 28)、9号(11. 12. 1)、10号(12. 3. 31)の3回発行
- (4) 一般広報
- 会員募集と連携して協会のパンフレット送・配布、空自業務管理講習における広報
- (5) 協会の将来方向の検討
- 理事会及び常務理事会において随時審議
- (6) 総会及び懇親会
11. 6. 24 第4回総会 グランドヒル市ヶ谷
- (7) 理事会及び常務理事会
- ア 理事会: 5回(6/1、7/14、10/6、12/7、3/24)
- イ 常務理事会: 5回(4/28、8/25、11/10、1/21、2/24)
- (8) 監査
12. 4. 12 平成11年度収支決算監査実施
- (9) その他
- ア 11. 6. 24 第4回総会において会長交代が承認され、石塚新会長が選任された。
- イ 理事会において、常務理事の職務分担の改正が決議された。
- ウ 理事会において、三沢支部及び沖縄支部の結成が決議され、平成12年度から発足することとなった。

第2号議案

平成11年度収支決算報告書

(平成11. 4. 1 ~ 12. 3. 31)

(単位: 円)

収 入			支 出		
前年度繰越金		2,203,747	支 出		
収 入			激 励 慰 問 費		0
年 会 費		3,627,950	共 同 訓 練 激 励 費		100,000
寄 付		0	研 修 助 成 費		71,863
利 息		4,027	式 典 行 事 参 加 費		190,715
雑 収		292,263	交 歓 親 善 行 事 費		706,790
計		3,924,240	総 会 費		212,348
			会 報 広 報 費		992,039
			名 簿 関 係 費		69,309
			会 則 関 係 費		21,105
			入 会 活 動 費		28,958
			支 部 設 立 準 備 費		0
			会 議 費		16,381
			事 務 費		72,449
			通 信 費		3,637
			旅 費		66,000
			雑 費		5,000
			予 備 費		0
			計		2,556,594
			翌年度繰越金		3,576,393
合 計		6,127,987	合 計		6,127,987

第3号議案

平成12年度事業計画書

第1. 平成12年度事業運営方針

- 1 航空自衛隊と在日米空軍の相互理解、友好・親善に寄与できる事業を協会の主要事業として、これを積極的に推進する。
- 2 正会員並びに法人及び個人賛助会員の募集を促進して一層の会勢の拡大を図り、協会の基盤を強化する。
- 3 あらゆる機会を活用して協会設立の趣旨をPRし、協会の活動について各層に広く理解を求める。
- 4 協会の将来の方向について引き続き検討する。

第2. 実施事業の概要

1 事業

- (1) 日米共同訓練における参加日米隊員の激励等
実施事項：訓練参加隊員の激励・慰問
訪問先：訓練のため米空軍が展開する空自基地
- (2) 米空軍隊員の激励・慰問
実施事項：米空軍隊員の激励・慰問
訪問先：三沢、嘉手納
時期：国連平和維持活動等に在日米空軍部隊が派遣される場合
- (3) 日米共同の行事等に対する支援
実施事項：嘉手納、三沢における日米隊員の友好スポーツ大会等への支援
- (4) 空自及び米軍基地等の研修
 - ア 正会員研修
実施事項：横田基地における施設、装備品等の研修等
時期：3/四半期
 - イ 賛助会員研修
実施事項：三沢・横田基地における装備品、施設等の研修及び懇談・激励等
時期：4/四半期
- (5) 日米要人等の講演
講師：米空軍、在日米大使館、防衛庁等の要人
時期：1/四半期（総会実施時）、3/四半期
参加者：正会員及び賛助会員、空自・米空軍隊員
- (6) SPORTEX
時期：2/四半期
場所：多摩ヒルズ
参加者：正会員及び空自・米空軍隊員
- (7) 在空自米空軍幹部等支援
実施事項：空自基地派遣米空軍隊員の活動等の

支援

- 対象：①新たに着任した在空自米空軍幹部（4基地程度）
②NCOエクステンジ・プログラムに参加する隊員
- (8) 日米隊員の表彰
対象基地：三沢、横田、嘉手納
表彰人員：各基地、日米1組基準
時期：米空軍記念日行事等関連行事実施時
 - (9) 指揮官交代行事等への参加及び来日した米空軍関係者の接遇
対象基地等：三沢、横田、嘉手納、都内
 - (10) 日米安保等に関する広報活動
実施事項：安全保障に関する講演の講師派遣
時期：都度（各基地からの要請による。）
場所：要請のあった基地又はその周辺
 - (11) 在日米空軍各基地との連携の強化
対象基地：三沢、横田、嘉手納
実施事項：各基地との緊密な調整、広報資料の提供等
 - (12) 会報「だより」の発行・配布
発行回数：3回（7月、11月、3月）
 - (13) 総会及び懇親会
日時：12年5月19日（金）
場所：GH市ヶ谷
実施事項：総会及び懇親会のほか、日米要人等の講演会を併せて実施
 - (14) 支部の設立
実施事項：三沢支部及び沖縄支部の設立
時期：12年4月1日
- 2 運営管理
 - (15) 会勢の維持・拡大
実施事項：PR（面談、卓話、パンフレット配布等）及び入会案内
 - (16) 会員名簿の作成・配布
発行回数：本冊1回（7月）、修正表2回（11月、3月）
 - (17) 一般広報
実施時期：関係広報誌等への投稿、情報の提供等
 - (18) 協会の将来方向の検討
 - (19) 協会創設5周年の記念的事業についての検討
 - (20) 理事会等
理事会：四半期毎に1回
常務理事会：理事会を開催しない月毎に1回
監査：4月（前年度予算及び決算の監査）

平成 12 年度事業予定表

項 目		1 / 四半期			2 / 四半期			3 / 四半期			4 / 四半期		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
事業	(1) 日米共同訓練参加隊員の激励等	----- (日米共同訓練実施時) -----											
	(2) 米空軍隊員の激励等	----- (部隊派遣時) -----											
	(3) 日米共同の行事等に対する支援	----- (行事等実施時) -----											
	(4) 空自及び米軍基地等の研修							(正会員研修)			(賛助会員研修)		
	(5) 日米要人等の講演	○ 5 / 19						○					
	(6) S P O R T E X							○多摩					
	(7) 在空自米空軍幹部等支援							○NCO支援			○		
	(8) 日米隊員の表彰							○					
	(9) 指揮官交代行事等への参加等	←-----			-----→			-----			-----→		
	(10) 日米安保等に関する広報活動	←-----			-----→			-----			-----→		
	(11) 在日米空軍基地との連携の強化	←-----			-----→			-----			-----→		
	(12) 会報「だより」の発行・配布				○ 8 号			○ 9 号			10号 ○		
	(13) 総会及び懇親会	○ 5 / 19											
	(14) 支部の設立	○4/1											
運営管理	(15) 会勢の維持・拡大	←-----			-----→			-----			-----→		
	(16) 会員名簿の作成・配布				○本冊			○修正表			修正表○		
	(17) 一般広報	←-----			-----→			-----			-----→		
	(18) 協会の将来方向の検討	←-----			-----→			-----			-----→		
	(19) 協会創設 5 周年記念事業の検討	←-----			-----→			-----			-----→		
	(20) 理事会等				☆ ☆			☆ ★			☆ ★		

第 4 号議案

平成 12 年度収支予算

科 目		1 2 年度予算	備 考
収 入	前年度繰越金	3,576,393	
	年会費	3,570,000	個人会員 264名 法人会員 40社
	寄付金	0	
	利息	5,000	
	雑収入	0	
	計	3,575,000	
支 費	激励慰問費	100,000	三沢、嘉手納
	共同訓練激励費	200,000	千歳、三沢、横田、府中、春日、新田原、築城、入間
	研修助成費	270,000	三沢、横田
	式典行事参加費	150,000	日米隊員表彰
	友好親善行事費	1,045,000	講演会、スポーツ交流、在空自米空軍幹部等支援、指揮官交代行事(3回)、在日米空軍各基地との連携強化(2回)
	総会費	220,000	総会、懇親会助成
	広報費	950,000	会報3回発刊 (83%)
運 営 管 理 出 費	名簿関係費	70,000	1回発刊、追録版発刊
	会則関係費	15,000	改正分発刊
	入会活動費	30,000	
	支部運営費	90,000	三沢、沖縄
	会議費	20,000	理事会、常務理事会
	事務費	70,000	事務用品
	通信費	30,000	各種連絡
	旅費	75,000	業務出張
	雑費	100,000	(14%)
	予備費	100,000	(3%)
	計	3,535,000	
	翌年度繰越金	3,616,393	

第5号議案

会 則 の 改 正

第7条（役員職務）に次の事項を追加する。

- 5 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるときは、あらかじめ理事長が定めた順序に従い、その職務を代行する。

第6号議案

J A A G A 役 員

職 名	氏 名	
会 長	石塚 勲	
副 会 長	石川吉夫、横澤彰夫、増元榮和	
監 事	石母田 治、大橋武郎	
理 事 長	村木鴻二	
副 理 事 長	江藤兵部	
常 務 理 事 (2)	総 務	山本寿之、坂本祐信、鈴木喜雄
	企 画	吉川武秀、後藤龍一、山口利勝、桑原武彦、川田哲雄
	会 員	村木裕世、細 稔、壺岐紘記
	渉 外	笠井健介、大谷廣利、林 昭彦
	財 務	横山俊夫、平田伸成
	広 報	田中伸昌、村田博生、横幕 功、篠原輝弘
理 事	小田康夫、利渉弘章、高橋伸治	
顧 問 (姓 の み)	浦、大室、上田、白川、平野、竹田、山田、森、大村、米川 杉山、鈴木、松村、長谷川	

(注) 新任(4名) : 鈴木、山口、林、平田各常務理事

退任(10名) : 臼井、松井、菅原、中村、新谷、斉藤各理事
工藤、荒蒔、武智、細川各常務理事

特別記念講演

WILD WEASELS

Commander, 35TH Fighter Wing,

B.Gen. Stephen G. Wood



B. Gen. Wood

1 序言

皆さん今晚わ、ワイルド・ウイーズルの歴史、現在、そして将来に関する話が出来て光栄です。

1950年代、アメリカ合衆国は軍事目標、計画及び開発を戦略的な争いつまり冷戦に集中させていました。兵器や用兵は報復攻撃を目標とし、核抑止が軍事訓練の中心でした。合衆国はベトナム戦争に突入した時、我々が実際に経験したベトナム戦の様な形態の戦いについて準備が出来ていませんでした。1962年、ケネディ政権の時、戦術空軍の再構築に取り組み、ベトナム戦争は最初の試練の場となりました。

1965年7月、ロシアが作った地対空ミサイル(SA-2、SAM)が導入されるまでは、我々空軍は支障無く任務を遂行する事が出来ていました。しかし、ベトナム軍は我々の航空機をレーダーで捕捉し、撃墜しました。我々はレーダーがそこにあるとは思っていませんでした。この結果、我々は新しい兵器、新たな戦法、そしてワイルド・ウイーズルを求めました。今からの話は、危機的な状況の中において、当時、現在そして今後も重要な空軍の特殊な任務(ミッション)を創り出すまでの話です。

2 ワイルド・ウイーズルの編成と発展

1つの特別部隊が編成されました。伝統的なアメリカの大胆さをもって90日間で、軍と民間企業の技術者によってワイルド・ウイーズルが創られたのです。これが、電子戦将校が戦闘機乗務員の一人に加わった最初です。そして又、レーダー・サイトを探して攻撃するためにレーダー探知器を用いたのも

初めてでした。

当初、戦闘機のパイロットは、この編成を歓迎しませんでした。後には少数の混成(マルティーン)乗務員も問題なく編成に組み入れることが出来る様になりました。SAMはパイロットを小火器や対空火器の圏内を飛行させることになりましたが、戦闘機のパイロットだけでは巧く攻撃出来ませんでした。誰もが、この新しい極秘のウエポンシステム、ワイルド・ウイーズルが戦闘で威力を発揮する事に期待をしていました。

北ベトナムに最初に出撃したワイルド・ウイーズルは撃墜されましたが、第2回目はSAMサイトを破壊しました。戦意は高まり、ワイルド・ウイーズルの概念は巧くいきました。任務は成功し続けましたが、最初の7機のワイルド・ウイーズルがベトナムに行き、5機が撃墜されるという犠牲も払いました。最初に開発されたミッションは「ハンター・キラー」でした。

F-100はレーダー探知器を用いてSAMサイトを探し、ロケットで位置を示しました。続いて、F-105が爆弾でレーダーサイトを破壊するため降下しました。ワイルド・ウイーズルは戦術と技術を同時に開発しました。

数カ月後、F-105サンダーチーフ戦闘機がF-100ワイルド・ウイーズルよりも速度が速い、というメッセージがペンタゴンに飛び込んできました。攻撃を受けた時、F-105サンダーチーフ戦闘機は600ノットで逃げ出したが、F-100は同じ速度で

追従出来ませんでした。F-100 ワイルド・ウイーズルはターゲット・エリアに最初に進入、最後に離脱と単独で苦闘しました。

ペンタゴンはこれを聞き、直ちにF-105Fにワイルド・ウイーズルの装備とシュライク・ミサイル(SHRIKE)を装着しました。この新しいミサイル等はSAMサイトのレーダーからのエネルギーを捉え、レーダーに向かってホーミングしました。ワイルド・ウイーズルはまだSAMの射程距離圏外に止まることが出来ませんでした。これらのサイトを防護している高射砲の射程圏外には止まることが出来ました。

最初にワイルド・ウイーズルに変換された6機のF-105の中、5機は撃墜されました。当初のウイーズルの搭載装備は単に方向を示すのみで、脅威からの距離は解読できませんでした。この戦術の限界に対する問題は搭乗員によって改善されました。F-105は高々度に行けます。これを「トローリング」と呼びました。このワイルド・ウイーズルはSAMを上向きに発射させるように仕向け、これを回避し、今度はSAMサイトを視認するためにミサイルの発射角度を下げさせるのです。発射されたSAMの煙を頼りに、場所を探します。戦術と対抗戦術は次々に変化していきました。

サンダーチーフに搭載したシュライク・ミサイルの射程距離はSA-2の約半分でした。シュライク・ミサイルの搭乗員はSAMに対してシュライク・ミサイルを45度に引き上げて発射する事にしました。これによりシュライク・ミサイルはSA-2よりも射程が長くなりました。

そして、今でも同じですが、人間対人間の戦いに戻りました。搭乗員はSAMのオペレーターがワイルド・ウイーズルの戦術を既に知っているかどうか解ります。“同じ機動作戦を2日連続で使うならば、ベトナム軍に2日目にはあなたが殺られる。”と言うことは常識でした。ベトナムの地上軍の策略や技量に対抗できるのは搭乗員の同じく策略や技量でした。器材の開発もまた脅威でした。我々は戦術と同様に器材の競争も行わなければなりませんし

た。

1968年、合衆国軍が北ベトナム行きを中止するまで、ワイルド・ウイーズルは素晴らしい成果をおさめました。97個のSAMサイトを破壊し、SAMミサイルによる航空機の損失を減らしました。ワイルド・ウイーズルは成功でした。／

3 F-4Cウイーズル

1972年、合衆国軍が再び北ベトナムに行った時、旧型F-105に代わり、新型のウイーズル機F-4Cが使われました。F-4Cは合衆国の新しい技術と共にやって来ましたが、敵軍もこの新しい技術に対して対策を講じました。地对空ミサイル・システムはF-4の器材の使用周波数域外で運用され始めたのです。このように、技術面で猫とネズミのゲームが始まりました。

ラインバッカーII (Linebacker II、1972) 作戦では、F-4が全てのB-52ミッションに随伴しました。しばしば、ワイルド・ウイーズルは搭載したシュライクミサイルの倍のSAMサイトと交戦しました。しかしながら、ラインバッカーII作戦の最後の5日間には、1発のSAMも発射されませんでした。北ベトナム軍にはミサイルが無くなっていたのでした。

4 HARMミサイル等

平時に戦時中のことを考えるのは容易ではありません。ワイルド・ウイーズル計画が萎みかけそうになりましたが、ベトナムで撃たれた者達がウイーズル・ミッションを擁護して発展させ続けました。

カリフォルニアのジョージア空軍基地では、次期ワイルド・ウイーズルであるF-4Gが誕生しました。レーダー警戒装置がハードウェアではなく、コンピュータ化されました。この新システムはハードウェア限界の影響を受けないので、とても機敏です。レーダー警戒の周波数範囲が増加されたので受信システムの迅速な修正が可能でした。更に、高速対電波放射源(Anti Radiation)ミサイル“HARM”が開発されました。

攻撃地域に入ろうとする時、ターゲットが何処にあり、どの様に攻撃するか、正確に頭に置いておくことが大切です。しかしワイルド・ウイーズルのパイロットは何処にあるか解らないか、どの様に遭遇するか分からない目標を攻撃します。ウインストン・チャーチルはかつて次のようにいいました。「人生で最も爽快なのは、敵があなたを撃って、それが外れた時です」。

80年代半ば、我々はF-4Gとブロック50(F-16)でワイルド・ウイーズル・ミッションを行い始めました。

デザート・ストームでの経験では、ウイーズルが飛行していればSAMは使われず、ということがわかりました。パイロットは実際にマグナム・ミサイルを発射しなくとも発射したように、“マグナム”コールを発信するだけで済みました。SAMのオペレーターは無線交信を聞いただけで彼等のシステムをシャット・ダウンしました。ある時は、HARMはレーダー放射がなされていないのに、既知の脅威区域に打ち上げられました。SAMのオペレーターが航空機を捕捉するためにエミッターのスイッチを入れた時には、搭載されたHARMは速やかに攻撃のレーダー波を捕捉して発射レーダーを破壊しました。

5 F-16 ワイルド・ウイーズル

デザート・ストームの後、我々はF-4Gを引退させたので、F-16が唯一のワイルド・ウイーズル・ウェポン・システムとなりました。1992年にジョージ空軍基地が閉鎖された時、部隊旗が三沢基地に譲渡され、第432D戦闘航空団から第35ワイルド・ウイーズルに変わりました。

現在の技術はHARMシステム又はHTS PODから構成されています。F-16のコンピューターとエビオニクス装置が一緒になったこのPODは、最新のワイルド・ウイーズルがSAMの脅威の正確な位置を知ることが可能にしています。航空機相互又は攻撃部隊に情報を送ったり、飛行経路に沿ったSAMの位置を地図上に表示する事ができます。

SAMの必要とする電子的要素を排除するために、航空機は高速対電波放射源ミサイル(HARM)と連結しています。ワイルド・ウイーズルの致死性は決して高くはありません。しかし、脅威は抑えられたわけではありませんので、全ての軍人はミサイル技術だけでなく可能性の改善を求め続けます。

LOW OBSERVABLE(ステルス性)は克服しがたいものであることは明らかです。今日の技術は空中からの攻撃兵器がSAMの射程範囲内に入り込むことを可能にしましたが、まだ無事に入り込むことはできません。ワイルド・ウイーズルの任務は必要とされ続けます。

6 結 言

今日、アジア太平洋地域は世界中で一番急速に発展し続けています。経済及び技術を基にした変革は、我々にとっては羨ましいのですが、これらの進歩は侵略にも利用される可能性があります。我々は過去3年間での北朝鮮におけるミサイル技術の増大を知りました。中国と台湾は政治的衝突を続けています。東南アジア、特にインドネシア地域は、国境問題及び軍事紛争で苦悩しています。

合衆国は航空自衛隊と訓練を続けることができ嬉しく思います。我々は良き同盟国であり、キーン・スワード(KEEN SWORD)及びコープ・ノースを通じて、平時に強化され、有事に極めて重要な日米両軍の親密な関係を築くことができました。ワイルド・ウイーズルの任務である敵防空網制圧(SEAD)は、最も致死性の高いSAMの脅威に対抗して確実に生き残る事です。合衆国軍だけでなく航空自衛隊を守る、この能力を日本で提供出来ることは我々にとって名誉なことであります。相互的な演習を通じて、訓練の機会を最大限に活用することによって、団結力を持って平和を維持する日米両国の能力を強化します。

第35戦闘航空団は我々の軍隊と日本の盟友を守る準備を整えています。ここ日本での米軍に対する友情や親切を大変感謝しています。

賛助会員基地研修

「任務の重要性と地元対策への配慮」を理解

—— 那覇・嘉手納・横田基地を訪問 ——

全 般

村田博生 常務理事

恒例となったJAAGA賛助会員の基地研修が、3月13日、14日の両日にかけて、島津製作所の市田康彦氏を団長とする法人・個人賛助会員24名に添乗の正会員4名、総勢28名の研修団が沖縄地区を主に空の日米基地を研修した。

出来るだけ多くの場所を研修して頂こうとの意向からタイトなスケジュールになりましたが、参加者の皆様の整然とした行動と研修受け入れ部隊の木目細かな配慮のお陰で研修目的を十二分に果たすことが出来た。

初日、空自C-1輸送機の体験飛行を兼ねて空自那覇基地に入り、在那覇空自主要幹部との昼食会に続いて陸路米空軍嘉手納基地へ移動、第18戦闘航空団司令スミス准将自らのブリーフィングを受けた後在嘉手納の部隊を研修した。夕刻から将校クラブでJAAGA主催の夕食会が開催された。市田団長のUSAF、JASDF及びJAAGAの将来の発展を願う旨のスピーチに拍手喝采、また、ここでもスミス准将のホスピタリティーが発揮されて大いに日米懇親の実が上がった。

2日目は、旧海軍司令部壕など戦史蹟を研修の後、空自那覇基地に入り南混団司令部のブリーフィング、



at Kadena AFB

主要装備品や施設の見学とタイトなスケジュールをこなして空路入間基地を経由、陸路横田基地へと移動した。横田基地では第5空軍司令官ヘスター中将のブリーフィングを受けた後司令官公邸でヘスター中将主催の懇親会が行われ、JAAGAから石塚会長、石川副会長、村木理事長が加わって研修の最後を締めくくった。

参加者の皆様から一様に、実地に米軍に接し、見て、聞いて「在日米軍の任務の重要性とそれに対応出来る態勢の維持、地元対策への配慮と努力が良く理解できた」との所見を頂き、添乗者としてこの上も無い喜びを味わう事が出来ました。

以下、参加者の所感文を掲載します。

所 感 文

富士重工業株式会社

技術計画室 室長 伴野 道彦

今回の米空軍嘉手納基地等研修は、那覇、嘉手納及び横田基地を一泊二日で研修するという中味の濃いもので、印象に残ることが数多くありましたが、研修日程に沿って簡単に述べたいと思います。

初日の朝、空自入間基地の空輸ターミナルから念願のC-1輸送機に乗り込み、約3時間のフライトで12時過ぎに那覇基地に着陸しましたが、予想した以上の機内騒音にも関わらず、適度のクッションの座席で快適に居眠りすることが出来ました。しかし、2～3時間の国内便ならともかく、PKF任務を想定した長距離任務用輸送機には、民間旅客機並みの快適性と設備が必要であると実感しました。

那覇基地に到着後、昼食会において南混団司令部幕僚長上村1空佐以下の沖縄を代表する心のこもったもてなしを受け、食堂に展示された写真パネルで、那覇基地の歴史を理解することができました。

那覇基地から嘉手納基地までの約1時間のバスによる移動では、国道沿いに米軍キャンプ地が多く見受けられ、沖縄が基地の島であるということも実感できました。

嘉手納基地のゲートに向かう取付け道路に入ると、周りの風景が一変し、さらに基地内のメイン道路を走っていると、建物がまばらで、しかもすべてが2回建て以下の低層建築であり、いたるところ緑の芝生と灌木で満たされており、左側通行であること以外はまるで米国西海岸の都市郊外の住宅地区を走っているような気分になりました。

第18戦闘航空団のミッションブリーフィングでの説明の主体は、太平洋の要石である沖縄の地理的位置での戦略的重要性と、その中で嘉手納基地の役割でありましたが、基地と地域社会の関係についても非常に細かい心配りをしていることに大変感銘しました。その後、広い基地内をバスで案内して頂き、KC-135の機内見学や運行チームとの直接質疑もあり、大変充実した研修ができたと思います。

最後に案内されたSHOGUN INNと呼ばれる宿舎がまたすばらしく、ちょっとしたリゾートホテルより余程立派なものでした。そこで一番驚いたのが、案内書の避難誘導の一番目が、火災時の避難でなく、爆撃時の避難(BOMB EVACUATION)と集合場所の指定であったことです。空軍基地であることを考えれば当然なのかもしれませんが、平和慣れた私にとっては、想像し難いことでした。

将校クラブでの夕食会には、スミス団司令以下の幹部の他、空自側からも幹部が出席され、ボリュームたっぷりの豪華なディナーを楽しむ和気あいあいとした雰囲気のものでした。私のテーブルには、嘉手納では唯一の女性の大佐であられるUckert大佐や、たまたま大佐とお知り合い林顧問が同席され、皆様方から、航空自衛隊の活動をめぐるいろいろ興味深いお話を伺うことが出来ました。

翌朝は、米軍の朝食を体験し米側出席者の丁寧な挨拶と見送りを受けて、嘉手納基地を後にし、途中で富見城村の旧海軍司令部壕に立寄り、沖縄戦の概要とその悲惨さを実感しました。沖縄戦による全戦没者数200,656名、米軍側にも12,520名の死者があったこと等、近年の戦争との差を感じました。

那覇基地に到着後、南西航空混成団のブリーフィングを受け、広範囲の防空任務のみでなく、陸自や海自との連携による那覇救難隊の重要性を認識することができました。

昼過ぎに、往路と同様C-1輸送機で帰途につき、米軍機上食なるものを少々もてあまし気味に体験しながら、15時過ぎに無事入間基地に着陸し、陸路横田基地に移動し米第5空軍司令官以下の出迎へとブリーフィングを受けました。その後、記念撮影のやり直しというハプニングがありましたが、第5空軍司令官主催の懇親会にお招き頂き、司令官公邸にて終始和やかな雰囲気のもと、米側出席者やJAAGAの皆様と懇親を深めることが出来ました。

最後になりますが、嘉手納基地等研修の機会をセットし、貴重な体験をさせて頂いたJAAGA幹事の方々と各基地にて案内や通訳のお世話をいただいた関係者の皆様に深く感謝致します。

丸紅エアロスペース株式会社
航空宇宙電子システム部
市川幸司 (33 歳)

今回初めて J A A G A の研修に参加させて頂き、米軍基地（嘉手納基地、横田基地）並びに航空自衛隊那覇基地を見学させて頂き、各基地がどのような役割を帯び、どのような任務を遂行しているのか良く理解できました。

また、とかく話題になりがちな、基地の存続問題につきましても、報道等で伝え聞くような地域住民との大きな衝突も無く、良好な関係が構築されつつあるような気が致します。特に、嘉手納基地では地域住民との親交を深めるために、地域活動に参加し、住民との対話の場を積極的につくろうと努力している事に感心致しました。

今後、更に友好的な日米関係が構築され、かつアジア・中東地域の平和が維持されていく事を希望致します。

最後に、今回このような機会を手配下さいました J A A G A の皆様に感謝致します。

日立製作所
防衛技術推進本部 第 2 システム部
古川 徹 (33 歳)

最初に、このように貴重な研修の機会を設けていただいた「日米エアフォース友好協会」殿に対して厚く御礼申し上げます。

これまでの仕事を通じ、自衛隊の方々とお付き合いは多少ありますが、米空軍との関係はほとんどありませんでした。このため在日米空軍の任務、組織、また国内にあるにもかかわらず基地の施設等については全く認識がありませんでした。本研修にて、米空軍幹部の方々から、直接懇切丁寧な説明を受けたこと、及び対話する機会があったことは大変有意義であったと感じています。研修では初めての経験の連続でした。

嘉手納基地との移動に使われた C-1 輸送機の搭乗も初体験でしたが、その上コックピットの様子を研修させて頂きました。

嘉手納基地にて研修した KC-135 空中給油機は、米空軍が抑止力として必要不可欠な装備であることを認識することができましたが、給油口が米空軍と米海軍で異なることに不思議な感じを受けました。

夕食会では、米空軍の幹部の方々と同席させていただき、生の声を聞いた事は非常に有意義でした。食事は予想したよりもはるかに美味であったことを付け加えておきます。

宿舎 (VOQ) はこの研修で一番驚いた点です。軍関係者でもない私のような一般の者には、まず利用できないほど立派な宿舎でした。帰社後の自慢話にしております。

復路の C-1 機内における米空軍機上食もよい体験でした。米空軍が長時間の任務をこなしているという認識を持ちました。

最後の横田基地での第 5 空軍でのブリーフィング、及び司令官公邸での招宴には感激致しました。

横田基地及び嘉手納基地におけるブリーフィングにより、特に在日米軍が当該地域との関係を良好に保つために相当の努力を為されていることを痛感致しました。

最後に、研修全体を通じきめ細かなご配慮をいただいた日米エアフォース友好協会正会員の皆様に心から感謝し、御礼申し上げます。

11年度日米共同訓練実施状況

F-15、E-2Cがグアム島で初の日米共同訓練を実施

JAAGAも訓練参加者を激励・慰問

平成11年度の日米共同訓練の実施状況は、航空幕僚監部が発表によると計5回実施したほか、初めて戦闘機等をグアムに展開させ、実践的な環境下での防空戦闘訓練及び戦闘機戦闘訓練等を実施した。

なお、JAAGAは、友好親善事業の一環として訓練参加隊員を激励・慰問した。

11年度日米共同訓練の概要は次のとおり。

1 全般

5回の日米共同訓練の内訳は、実働訓練4回、指揮所演習1回である。実働訓練では防空戦闘訓練を3回、戦闘機戦闘訓練を2回、救難訓練を1回、再発進訓練を2回実施した。またこの他に小規模日米共同訓練を48回実施した。

また、初めて米国グアム島アンダーセン空軍基地にF-15戦闘機6機、E-2C型早期警戒機2機を展開させ日米共同訓練を実施した。

2 成果

日米共同訓練は、日米部隊相互間の連携要領の演習及び戦技能力の向上を図ることを目的として実施しているが本年度も以下のとおり着実な成果を得た。またこれらの訓練を通じて日米部隊間の信頼感の醸成及び一層の友好の促進にも多大な成果を得た。

- (1) グアムにおける日米共同訓練においては、グアム周辺の広大な訓練空域を活用して我が国では実施困難な実践的環境下で防空戦闘訓練及び戦闘機戦闘訓練を実施しそれぞれの能力を向上した。
- (2) 日米指揮所演習については、アラスカ州エレンドルフ空軍基地において米空軍の指揮所演習シミュレーションシステムを使用して実施し我が国防衛実施時の指揮所活動における共同運用能力の向上を図った。
- (3) 小規模日米共同訓練は、北部航空方面隊地域において11回、西部航空方面隊地域において24回、南西航空方面隊地域において13回実施し、主として操縦者の戦技能力の向上を図った。
- (4) 訓練別の成果については、
 - ア 防空戦闘訓練では、組織的な戦闘要領を通じて共同運用能力の向上を図った。
 - イ 戦闘機戦闘訓練では、対異機種戦闘訓練を通じて操縦者の戦技能力の向上を図った。
 - ウ 救難訓練では、救難活動に係わる部隊間の連携要領の向上を図った。
 - エ 再発進準備訓練では、航空機の点検等の再発進準備に係わる連携要領の向上を図った。

お詫びと訂正

前10号のヘスター中将講話(要旨)記事の一部に落行がありました。謹んでお詫びし訂正致します。

(5) ページ左欄中段、挿入写真上の「B-2やC-17のような新兵器のお陰で、補給物資」の行の次に「や、兵員を作戦地域まで速やかに輸送でき、ウイット」の行が落行していました。

完成文; 「…補給物資や、兵員を作戦地域まで速やかに輸送でき、ウイットマン基地……」

ご講話頂いたヘスター中将並びに読者の皆様には重ねて失礼をお詫び申し上げます。

編集子

グアムで2回目の日米共同訓練

空自F-15を10機派遣しF-16と初対戦

JAAGA会長が激励

空自は5月30日から6月3日までグアム島において日米共同訓練（コープ・ノース・グアム00）を実施した。昨年度から始まったグアム島での共同訓練では、広大な訓練空域を使用するため国内では実施困難なより実戦的な訓練が実施できるため多大な成果を上げている。

今回は、参加規模も拡大しF-15戦闘機10機を派遣した他、E-2C×2機及び人員190名が参加した。

なお、JAAGAはこれまで日米共同訓練の参加部隊を日米友好親善事業の一環として都度、激励・慰問しているが、今回も去る5月22日、石塚勲JAAGA会長が航空幕僚監部を訪れ、航空連合幹部会会長竹河内空将（航空幕僚長）を訪ね、参加部隊に対する激励を行なった。

今回の訓練の概要は以下のとおりである。

1 派遣期間：5月18日～6月8日

2 共同訓練期間：5月30日～6月3日

3 訓練実施基地等：米空軍アンダーセン空軍基地及びその周辺空域

4 訓練実施部隊

(1) 航空自衛隊

第6航空団（小松）F-15×10、警戒航空隊（三沢）E-2C×2

(2) 米空軍

第18航空団（嘉手納）E-3B×1、KC-135×2

第354戦闘航空団（アラスカ州アイルソンAFB）F-16×6

5 演練項目：防空戦闘訓練、戦闘機戦闘訓練及び再発進準備訓練

この他、米軍電子戦機の支援を受けて電子戦訓練

6 その他：訓練支援部隊として航空支援集団がC-130H輸送機により展開・撤収を支援

米空軍第35戦闘航空団司令の 指揮官交代式に出席して

石川副会長

三沢の第35戦闘航空団の指揮官交代式が6月30日に行われました。JAAGAを代表して私と小沢三沢支部長が出席し、JAAGAからの記念の楯を贈呈致しました。

交代式は第5空軍司令官ヘスター中將によって執り行われましたが、ヘスター、ウッド両將軍の人柄を反映して厳肅な中にもユーモアに溢れた楽しいものでした。

離任されたウッド准將には、先に実施したJAAGA総会時のワイルドウィーゼルの講演を始めとしてJAAGAが大変お世話になりました。

新職務は、議会との連絡調整という戦闘航空団の指揮官とは全く異なった領域なので、ワシントンにおける新しい配置でのご成功を心からお祈りしたいと思います。

新しい団司令に着任したアターバック准將はやはり戦闘機のパイロットですが、日本には初めての勤務だそうで色々日本のことを勉強するのを楽しみにしておられるそうです。今年度には会員の三沢基地研修も計画されていることでもあり、変わらぬご支援をお願いしておきました。

投稿広場

今回は、米国に交換幹部として出張中の上野 1 尉及び尾崎 3 佐から届いた e-mail 及びハガキを紹介致します。海外出張中に日本から届く活字印刷物が楽しみという彼等にとって、JAAGA の「だより」は情報源としても役に立っているようです。

差出人：Yueno2@aol.com <上野康弘>
宛先：Yokoma@mb.infoweb.ne.jp
日時：2000 年 4 月 14 日 7:10
件名：JAAGA だより

Capt. Yasuhiro Ueno
ASC/YTA
BUILDING 11A
1970 MONAHAN WAY
Wright-Patterson AFB, OH45433-7211

アメリカオハイオ州に交換幹部（研究開発）として出張しております。上野 1 尉です。

岐阜基地飛行開発実験団飛行隊 TPC 教育班に在籍していた時に在日米軍副司令官ボールデン少将の講演をお願いする件ではお世話になりました。

本日、「だより」を受け取りました。まことにありがとうございました。近年の情報分野の急速な発達のお陰で、ホームページ上で日本のニュースもリアルタイムで知る事が出来ます。しかし、やはり印刷物で日本語に触れられるのは大変有り難い事であります。

交換幹部としてライトパターソン基地に赴任して、早いもので一ヶ月が過ぎ、こちらの生活パターンや職場環境にもようやく慣れてきたところであります。職場は AFMC (Air Force Mterial Comannnd) ASC (Airronautical System Center) の練習機で T-38 のアビオニクス近代化を担当することとなり、現在、関係資料に日々あたっているところであります。日本でいうところの技術研究本部航空開発官付きといったところだと思えます。

全て英語という環境は今回が初めてとなりますが、これまでの経験を活かしつつ 2 年間という期間こちらで頑張っていきたいと思っております。外国から日本という国を眺める良い機会であり、また軍事に関しては群を抜くアメリカ軍組織内から自衛隊を眺め、どのように自衛隊が変わって行かなければならないのかを考えていきたいと思っております。

それでは次回の「だより」を楽しみにしております。

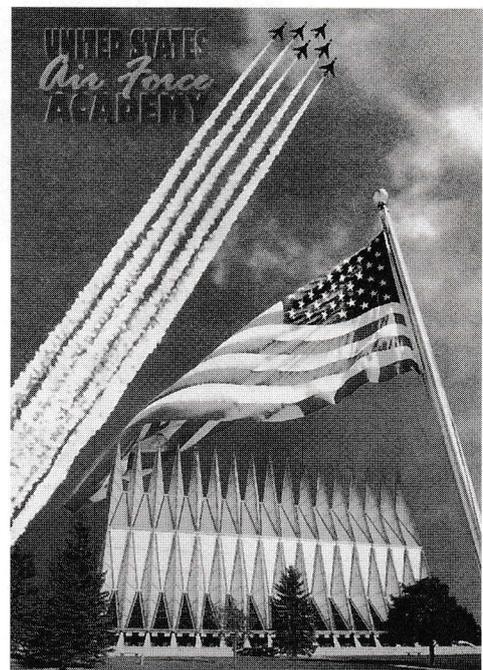
米空軍士官学校交換幹部の尾崎 3 佐です。

前任の深澤 3 佐より本年 1 月、業務を引き継ぎました。よろしくお願い致します。

先日、「日米エアフォース友好協会だより第 10 号」をお送りいただきました。日本の情報に乏しい中、大変参考になりました。ありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。

3 等空佐 尾崎義典 (防 32、F-4 操縦)

YOSHINORI OZAKI
4301C W. Antelope Dr.
USAF Academy,
CO 80840 U.S.A



日米ネービー友好協会 (JANAF A) 懇親会

J A A G Aよりも5年年長の兄貴分に当たるJ A N A F Aの懇親会は、4月20日グランドヒル市ヶ谷に於いて総会と講演会(講師:防衛研究所第一部長 近藤重克氏、演題:米国の東アジア戦略)に引き続き実施され、石塚会長が出席した。

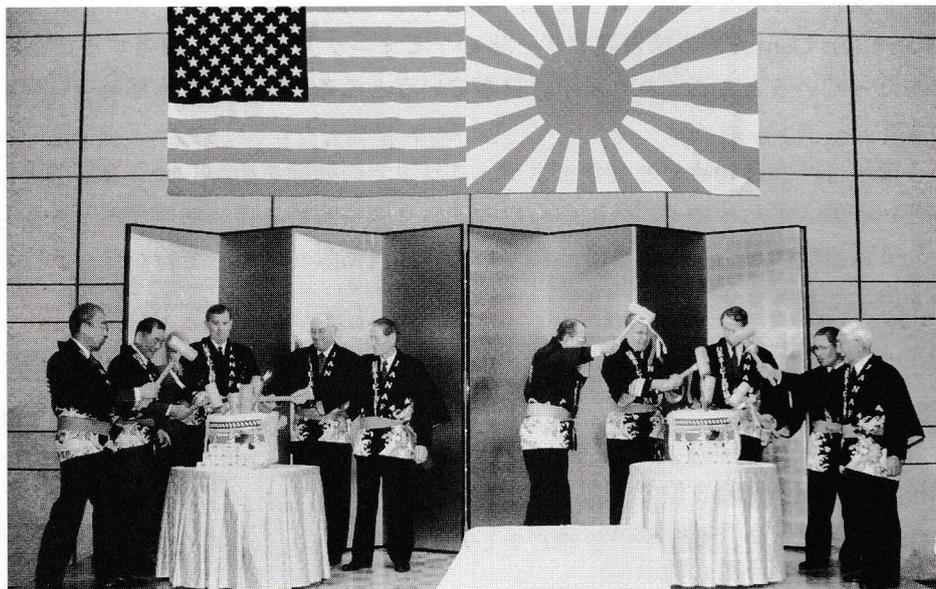
先ずJ A N A F Aの活動に対する協力支援を謝して、米海軍第7潜水隊群司令のクロール少将と、海自第2潜水隊群司令牧田1佐に感謝状が渡された後、岡部文雄会長が“海上自衛隊OBが、同盟国海軍に対する協力を惜しまないことは、ホストネーションとして当然である。来年はJ A N A F Aの創立10周年を迎える節目に当たり、さらに積極的な活動を展開したい”と挨拶された。

次いで来賓として依田統括政務次官、米国大使館

のラフルアー首席公使、藤田海幕長及びドーラン第7艦隊司令官がそれぞれ祝辞を述べた。

鏡割の後J A A G Aの石塚会長が壇上に立ち“原潜の体験航海で最も印象的であったことは、艦内それぞれの部署及び艦全体の強いチームワークと、それを育てるための艦長以下士官全員の素晴らしい努力でした。J A N A F Aがこの強い団結力で一層発展されるよう、そして精強な海上自衛隊と米海軍のために”と口上を述べて乾杯の音頭をとった。

月原参議院議員、大森施設長長官、板野調本長、東京及び近在の海自・米海軍主要幹部、法人・個人賛助会員多数が揃い、互防衛庁長官も途中で顔を見せて盛大な懇親会であった。



JANAF A Reception

講演等の要望を募ります

「安全保障に関する日米関係」等

防衛協力のための指針や物品役務相互提供などに関する論議がしばしば行われる昨今、事務局では日米関係の現状や展望に関するより良い理解の

ため、主として基地周辺の皆様を対象とする講演、懇談会等を企画できるよう準備しています。ご要望あれば御一報下さい。 J A A G A事務局

… 新入会員の紹介 …

1 新入会員の紹介

(1) 正会員

(五十音順敬称略)

氏名	〒	住所	勤務先
鹿毛 健 稔	274-0812	船橋市三咲 2-20-12	東通電子(株)
川崎 鎮 男	165-0035	中野区白鷺 3-3-4-217	
草刈 武 志	066-0057	千歳市若草 2-15-4	北工電気(株)
鈴木 敏 且	239-0808	横須賀市大津町 5-1-524	三菱電機(株)
鈴木 喜 雄	275-0025	習志野市秋津 1-1-8-106	横浜ゴム(株)
津金澤 洋 美	202-0004	保谷市下保谷 4-10-11	(株)MHIロジテック
西川 正 長	299-3263	千葉県山武郡大網広里町柳橋 964-3	三菱商事(株)
野村 亘 康	359-1141	所沢市小手指町 3-27-1	(株)日立製作所

(2) 個人賛助会員

氏名	〒	住所	勤務先
佐藤 昭 子	114-0032	北区中十条 3-2-9	(株)サンマーク・ライ フクリエーション
カーチス・オーチャード	231-0854	横浜市中区根岸旭台 48 根岸ハウスA	ノースロップ・グラマン・ インターナショナル・インク

(3) 法人賛助会員

法人名	〒	住所
ボーイング・ジャパン 代表者；当麻晴彦（ディレクター）	100-0005	千代田区丸の内 1-1-3 AIGビル12F
GE 航空機エンジン 代表者；三谷宏幸（社長兼ゼネラルマネージャー）	107-8453	港区赤坂 1-14-14 興和 35ビル

2 訂正

第10号「だより」の新入会員紹介欄に下記の誤記がありました。

謹んでお詫び申し上げますと共に訂正させていただきます。

(1) 平田伸成様姓；（誤）平間；→（正）平田

(2) ロッキード・マーティン ティー・エイ・エス・インターナショナル コーポレーション住所；

（誤） 〒106-0047 港区南麻布台・・・→

（正） 〒100-0011 千代田区内幸町 1-1-1 インペリアルタワー 9階

☆ 原稿募集 ☆

≪ 投稿ページ「投稿広場」 ≫

皆様からのフリーな投稿や、JAAGAの活動に対するご意見やご要望を頂戴し

皆様と共に歩むJAAGA

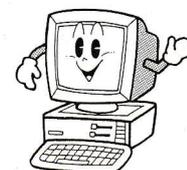
として更なる発展を期していきたいと思っております

皆様の貴重なご意見や各種投稿をお待ちしています

投稿受付

横幕 功 Tel 03-3286-0335 (新東亜交易)

Fax 03-3213-2405



会 員 募 集

発足4年目を迎えたJAAGAは、石塚新会長の下で、会設立の趣旨の具現化を目指して大いに活動を活発化すべき時と考えております。

会員相互手を携えて、来たるべき21世紀に向けて更なる前進を図るため、個人会員の会勢拡大に努めております。会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関する御協力、御支援を是非とも宜しくお願い致します。

なお、個人会員につきましては次の通りです。推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当の係から連絡させて戴きます。

【入会資格】

正 会 員 : 航空自衛隊OB

個人賛助会員 : 航空自衛隊OB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】

「郵便」 〒162-8785 東京都新宿区北山伏町1-5 牛込郵便局局留

日米エアフォース友好協会 会員担当行

「FAX」 03-5323-5555 村木裕世(横河電機(株))

「電話」 03-5323-5135 同上

03-3219-5638 細 稔(株島津製作所)

042-333-1229 壺岐 紘記(日本電気(株)) ()内は勤務先

ワンポイントQ&A

Q JAAGAとは？

A JAAGAは、航空自衛隊と米空軍との相互理解と友好親善の増進に資することを目的とし、現役の皆さんが仕事をやりやすい環境作りに寄与しようという航空自衛隊OB主体の組織です。

Q 協会の運営は？

A JAAGAは、ボランティアに徹し見返りを求めないこと、及び努めて現役の皆さんに負担を掛けないことを方針として運営しております。多くの皆様の期待に応えるべく、さまざまなアイデアを取り入れ、活動の幅を広げ、種々の事業を展開してまいります。

Q 私も参加できますか？

A JAAGAは、その活動をより活発にするため、個人会員の会勢拡充に努めております。航空自衛隊のOBの方は、どなたも正会員として入会できます。また航空自衛隊OB以外の方でも、個人賛助会員として入会の道があります。